

**丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略  
効果検証結果**

数値目標の効果検証・重要業績評価指標（KPI）ごとの効果検証		P1
基本目標 1	魅力的なしごとを創造する	P2～P5
基本目標 2	交流人口を増やす	P6～P8
基本目標 3	市民みんなで子育てを応援する	P9～P12
基本目標 4	元気な地域をつくる	P13～P15









丹（まごころ）の里創生総合戦略【基本目標 1 魅力的なしごとを創造する】事業一覧

進捗管理 シートNo.	事業名	施策の方向性	交付金の種類	施策の分類	決算額 (千円)	事業における重要業績評価指標 (KPI)				担当課			
						指標名	単位	数値目標	成果数値	達成度	今後の方向性	KPIに対する効果・検証	課題と改善点及び方向性
19	IT関連 事業所振 興支援助 金事業	1-3. 若者がス モールビジネ スに挑戦でき る環境づくり	地方創生先 行型交付金 (基礎交 付)	1-3-(2) 起 業者支援	571	新規開設事業者数	件/年	3	1	△	IT関連事業所は県民による事業効果の期待できるので、既存立 地企業の問題委託などの誘致をアプローチ先の有力候補として立 地を促す。また、IT関係者の事業性や経験等を要件としている ので、事業者選出に当たっては補助金を活用し、研修やセミナー などを通じて、事業者のスキルを向上させ、事業の取り組みに促 す。今後の課題は、事業者の選出に当たっては、県民の取組に促 すなど、地元企業と連携を深めることで関係性数の増加をはかる。	IT関連事業所「を県民に合わせ広く定額づけているの で、数値目標の達成をめざす必要がある。	今後の方向性 A: 引き続き現 状の取組を推 進する

達成度	数値
◎ 達成 (目標値以上)	18
○ 概ね達成 (目標値の80%以上100%未満)	6
△ 未達成 (80%未満)	12
- 実績値なし (当該年度の実績値なし)	3
<b>合計</b>	<b>39</b>

今後の方向性	数値
A: 引き続き現状の取組を推進する	8
B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	9
C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討する	1
D: 取組を縮小・中止する	1
<b>合計</b>	<b>19</b>

## 基本目標2 交流人口を増やす

～ 「人」との出会いから地域の魅力を伝え、交流を促進し、移住・定住につなげる ～

○市制15周年の節目となる平成31年度（2019年度）を『丹波市元年』と位置付け、丹波市の魅力資源を総合的に生かし、市民の愛着と誇りを醸成するとともに、丹波市の対外的な認知度とイメージ向上を図るため、シティプロモーションに積極的に取り組みます。本市の伝統・文化・人々の営みをフル活用して「ワクワク・ドキドキするキャンペーン（仮称）」を市の総力をあげて展開する。また、移住相談窓口を併設する観光拠点の整備を行い、総合的な観光まちづくりの推進と本市を移住先の候補と考え訪れる人や、観光に訪れ本市のファンになる人などに、本市の魅力を確実に発信することで、交流から移住・定住へつなげる施策を展開していく。

### 【基本目標の重要目標達成指標】

数値目標	項目	基準値		中間KPI			目標値
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
相談窓口を利用して移住した転入者数	数値目標	-	36人/年	36人/年	36人/年	36人/年	36人/年
	成果数値	11人/年	24人/年	23人/年	29人/年		
	達成度	-	△	△	○		
観光入込客数	数値目標	2,300千人/年	2,167千人/年	2,200千人/年	2,233千人/年	2,266千人/年	3,000千人/年
	成果数値	1998千人/年	2,109千人/年	2,079千人/年	2,184千人/年		
	達成度	-	○	○	○		

【達成度】◎達成（目標値以上）、○概ね達成（目標値の80%以上100%未満）、△未達成（80%未満）、-実績値なし（当該年度の実績値なし）

### 【内部検証】

○【基本目標の重要目標達成指標】相談窓口を利用して移住した転入者数が目標を概ね達成した。特にファミリー層の転入者が23人であることから、様々な移住施策の成果が着実に現れつつある。新たな事業として、移住者に向け、地域の人との繋がりがづくりや地域づくりへの参加をサポートし、移住後の充実した生活を支援する「たんば“移充”計画」の取り組みを相談窓口と連携しながら引き続き進める。

○【地域資源を活かしたシティプロモーションの展開】「地域のために活動したい、働きたいと思う」市民の割合は、目標値を概ね達成したものの、実際に活動することをもって目的が達成できるものであることから、市民参画の機会を設ける必要がある。より多くの市民がシティプロモーションの推進に参画することにより、まちへの愛着と誇りの醸成へとつながることから事業の単体実施ではなく、相互に連携した新たな展開につなげていく。

インバウンド観光への対応や外国人観光客をはじめとする全ての観光客が市内を快適に周遊できるように市のホームページやWi-Fi機器の設置、公衆トイレ等便器の洋式化等の整備を進めた。今後更に多言語化パンフレットの作成等を進め、観光客の増加を図る。

丹波竜活用事業では、発掘現場周辺の整備やちーたんの館の充実を図ってきた結果、発掘現場及び丹波竜化石工房への来場者（来館者）数が増加した。展示物の拡充や、丹波竜化石工房夏期特別展等の開催により誘客数の増加や交流人口の拡大を更に図る必要がある。

○【大阪・東京圏に向けた情報発信の強化】イベント・住まい（住まいるバンク）・仕事（たんばの仕事）の各種情報を継続的に発信したことから、アクセス件数が増加し目標値を達成した。平成30年度より、実施主体が分かれている移住・定住に関する各種業務をまとめ一本化し、「たんば“移充”テラス」として実施することから、情報発信についても、Webサイトに加え、フェイスブック（FB）、メールマガジン、広報物、パンフレット等による情報発信と連動性を持たせた情報拡散を図るとともに、相談窓口業務や各種イベントとも一体性のある情報発信を試みる。

U・Iターン希望者・移住者の呼び込みのための相談会については、自治体間競争の様相になってきていることから、単純な相談会出展のみでは移住者獲得が難しくなりつつある。地方移住という選択肢を改めて示し、年間を通して効果的かつ継続的な情報発信を移住希望者に提供し、丹波市での暮らしの魅力を伝える中で、相談会への来場を促す必要がある。

○【移住・定住の促進】ワンストップ窓口相談業務の委託業者が、民間ノウハウと独自ネットワーク、移住希望者のニーズに合わせた相談対応を行い、相談件数、実相談人数ともに堅調に伸びている。移住世帯数は、全体ではH28年度と比べ14世帯と1減であるが（人数は6人増加し29人）、概ね目標値を達成している。平成30年度より、実施主体が分かれている移住・定住に関する各種業務をまとめ、一本化し、一つの実施主体が総合的に取組む体制を構築し、効率的かつ効果的なサービスの提供を図る。

### 【委員会コメント】

丹（まごころ）の里創生総合戦略【基本目標2 交流人口を増やす】事業一覧

進捗管理シートNo.	事業名	施策の方向性	交付金の種類	施策の種類	施策の分類	決算額（千円）	事業における重要業績評価指標（KPI）				担当課	課題と改善点及び方向性
							指標名	単位	数値目標	達成度		
20	市民参加によるプログラミングの推進	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開	地方創生推進交付金（広域連携型）	2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① 年間観光入込客数 ② 「地域（まち）のために活動したい、働きたいと思う」市民の割合 ③ 行/7 PR-VO/支援事業採択件数（応募） ④ 行/7 PR-VO/支援事業採択件数（履歴）	2,391	千人/年 %	2450 50	○ ○ △ ◎	B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	1. 地域（まち）のために活動したい、働きたいと思うの、実際に活動することを目的として、市参画の機会を設ける。そのためにも、市参画の機会を設けること。また、市民参加の機会を設けることにより、地域資源を活かしたプログラミングの展開を促進する。 2. 市民参加によるプログラミングの展開を促進するために、様々な人材を確保していき、幅広い年齢層に普及させる。 3. 様々な年齢層に普及させることにより、地域の活性化を図る。	
21	全国公募によるプログラミングの推進	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開	地方創生推進交付金（広域連携型）	2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① 宇宙教育参加組数 ② スタチャ、ツア参加者数 ③	2,227	組/累計 人/累計	100 70	△ △	B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	1. 市民事業者が進出しやすい環境の整備（資材等の備蓄化、施設利用の促進）を行うこと、事業者側にも可能な限り、市民事業者の参加を促すこと、事業者側にも可能な限り、市民事業者の参加を促すこと。 2. 市民事業者の参加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 市民事業者の参加を促すことにより、地域の活性化を図る。	
22	廃校施設活用奨励補助金	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開		2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① 活用した廃校施設数 ② 廃校活用事業者数 ③	313	施設 事業者	1 3	◎ △	A: 引き続き現状の取組を推進する	1. 市民事業者が進出しやすい環境の整備（資材等の備蓄化、施設利用の促進）を行うこと、事業者側にも可能な限り、市民事業者の参加を促すこと、事業者側にも可能な限り、市民事業者の参加を促すこと。 2. 市民事業者の参加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 市民事業者の参加を促すことにより、地域の活性化を図る。	
23	観光まちづくり拠点整備（観光DMO推進事業）	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開		2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① 年間観光入込客数 ②	1,053	千人/年	2233	○	C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討する	1. 観光まちづくり拠点整備（観光DMO推進事業）の推進による、観光客の増加を促すこと、観光客の増加を促すこと。 2. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。	
24	観光インフラ整備事業（丹波電化石工事の推進）	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開	ひようご地域創生交付金	2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① 年間観光入込客数 ② 観光ホームページ閲覧数 ③ 公衆トイレ洋式等便器設置基数 ④ 多言語化フレット配布数 ⑤ Wi-Fi機器設置箇所	3,664	千人/年 千円/年 基数 部 箇所	2233 - 6 - 7	○ - ◎ - ◎	B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	1. 観光まちづくり拠点整備（観光DMO推進事業）の推進による、観光客の増加を促すこと、観光客の増加を促すこと。 2. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。	
25	丹波電化石工事の推進	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開	ひようご地域創生交付金	2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① 丹波電化石工事来館者数 ② 化石発掘現場の来訪者数 ③ 連携自治体との交流学習に参加した児童数（小学生数） ④	54,624	人/年 人/年 人/年	48000 25000 -	◎ ◎ -	A: 引き続き現状の取組を推進する	1. 丹波電化石工事の推進による、観光客の増加を促すこと、観光客の増加を促すこと。 2. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。	
26	丹波スターコン活用事業	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開	地方創生先行型交付金（基礎交付）	2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① スターコン活用した商品の販売数 ② スイーツフェアスティバル参加者数 ③ マスコミに取り上げられた回数 ④	1,071	品/年 人/年 回/年	2 2600 3	◎ △ ◎	B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	1. 丹波スターコン活用による、観光客の増加を促すこと、観光客の増加を促すこと。 2. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。	
27	ふるさと寄附金の推進	2-1. 地域資源を活かしたプログラミングの展開		2-1-(1). 地域資源を活かしたプログラミングの展開	① 寄附件数 ② 寄附金額 ③ 記念品数 ④	209,925	件/年 千円/年 品	16000 320000 200	△ △ ◎	B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	1. ふるさと寄附金の推進による、観光客の増加を促すこと、観光客の増加を促すこと。 2. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。	
28	丹波市移住定住サイトによる情報発信	2-2. 大阪・東京圏に向けた強い情報発信の強化	地方創生先行型交付金（タイプI）	2-2-(1). 大阪・東京圏に向けた強い情報発信の強化	① ホームページアクセス件数（TURN WAVE-丹波）統合後 ② ③ ④	2,147	件/年	50000	◎	A: 引き続き現状の取組を推進する	1. 丹波市移住定住サイトによる情報発信の強化による、観光客の増加を促すこと、観光客の増加を促すこと。 2. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。 3. 観光客の増加を促すことにより、地域の活性化を図る。	



丹（まごころ）の里創生総合戦略【基本目標2 交流人口を増やす】事業一覧

進捗管理シートNo.	事業名	施策の方向性	交付金の種類	施策の種類	決算額(千円)	事業における重要業績評価指標 (KPI)				今後の方向性	担当課	課題と改善点及び方向性		
						指標名	単位	数値目標	成果数値				達成度	
29	田舎暮らし相談会の開催	2-2. 大阪・東 京圏に向けた情 報発信の強化	地方創生先 行型交付金 (タイプ I)	2-2- (1). 大 阪・東京圏 に向けた情 報発信の強 化	235	① 移住・定住の相談件数	件/年	60	9	△	B: 全般的には 推進し取組の 一部を改善す る	ふるさと回帰支援センター(ふるさと回帰フェア主催団体)の正 会員となり、体系的に移住フェアに参加し、相談件数を伸ばす。 また、移住希望者に移住フェアでの暮らしの魅力を継続的かつ効果的 情報発信すること、地方移住という選択後を改めて示し、相 談への果敢を促す。		
						②								
						③								
						④								
30	空き家バンク、空き 家活用対策事業	2-3. 空き家を 有効活用した 移住・定住の 推進	地方創生先 行型交付金 (基礎交 付)	2-3- (1). 空 家活用促 進	12,502	① 住まいるバンクを通じた空き家の成 約数	戸/累計	35	58	◎	A: 引き続き現 状の取組を推 進する	・ 地域をこし協力隊の活躍により、空き家バンクやその補助金等 のメリットが利用者にも知られ、空き家バンク登録数の増加に伴 い、物件が充実し、政府補助金も増えている。の親切・丁寧な対応を 維持することにより、口コミによる意向効果も出ており、利用者 増につながっている。		
						② 補助金を活用した空き家戸数	戸/累計	40	74	◎				
						③								
						④								
31	大学と地 域住民連 携による再 生活用サ ーブル事業	2-3. 空き家を 有効活用した 移住・定住の 推進	地方創生先 行型交付金 (タイプ I)	2-3- (1). 空 家活用促 進	0	① イノベーションハブに連携所やチャレンジ ショップを構築して事業を行う人数	人/年	4	11	◎	A: 引き続き現 状の取組を推 進する	佐治県補助金等、定期的な交流イベントの実施、地元団体の利 活用が盛んであり、地域のコミュニティ意識の高まりや、移住者 増が活用することができている(お話しコミュニティを築いて いる。		
						②								
						③								
						④								
32	定住促進 住宅	2-3. 空き家を 有効活用した 移住・定住の 推進		2-3- (1). 空 家活用促 進	1,974	① 入居戸数	戸/累計	4	3	△	B: 全般的には 推進し取組の 一部を改善す る	入居者要件(50歳未満(県外)、専業主婦)を厳重し、入居の限 大層である。ターゲットとしていた子育て世代となり、地元地域で の活躍が期待される。 H29年度継続事業として、1棟整備 (H30年5月完成、上新住宅定住 連住宅)。		
						②								
						③								
						④								
33	丹の里田舎暮らしフリース トラップ相談業 務「定住促進 センターへ派 充(仮称)」	2-3. 空き家を 有効活用した 移住・定住の 推進	地方創生先 行型交付金 (基礎交 付)	2-3- (2). 移 住・定住の 促進	14,854	① 相談窓口を利用して移住した世帯数 (ファミリー層)	世帯/年	7	11	◎	B: 全般的には 推進し取組の 一部を改善す る	H29年度に引き続き、フリーストラップ相談業務の委託事業者「長 野ノカブト」様と連携し、相談件数、相談人等とも大幅に伸びてい る。移住世帯数は、全体では4世帯と減っているが(人数は6人増 加した)、種々目標を達成している。地域の人の声が届くようりや地 場産業として、移住者向け、地産品の販売など、移住者支援す る「トラスト」の取り組みが相談窓口で運動しているから 進めた。		
						② 相談窓口を利用して移住した世帯数 (田舎暮らしのしたい定年層)	世帯/年	4	3	△				
						③ ワンストップ相談件数	件/年	1400	1505	◎				
						④								
34	新しい定住促進住宅補助金	2-3. 空き家を 有効活用した 移住・定住の 推進		2-3- (2). 移 住・定住の 促進	19,459	① 補助金活用世帯数 (U・Iターン)	件/年	-	24	-	D: 取組を縮 小・中止する	H29年度は、H29年度までに事業費をこした対象者のみの交付で あったが、届け込み申請が多くなったH29年度より、実績値は下 がった。		
						② 補助金活用世帯数 (2世帯同居)	件/年	-	12	-				
						③								
						④								
35	U・I ターン住 宅取得住 まいの奨 励金	2-3. 空き家を 有効活用した 移住・定住の 推進		2-3- (2). 移 住・定住の 促進	1,956	① 補助金活用世帯数 (U・Iターン)	件/年	7	7	◎	A: 引き続き現 状の取組を推 進する	新しい空き家定住促進住宅補助金制度について、補助金・関連領 加算金の効果等について内容の刷新を行い、それに代わる制度 としてH29年度より開始。目標値は達成した。		
						② 補助金活用世帯数 (2世帯同居)	件/年	7	7	◎				
						③								
						④								

達成度	
◎ 達成 (目標値以上)	17
○ 概ね達成 (目標値の80%以上100%未満)	4
△ 未達成 (80%未満)	10
- 実績値なし(当該年度の実績値なし)	5
<b>合計</b>	<b>36</b>

今後の方向性	
A: 引き続き現状の取組を推進する	6
B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	8
C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討する	1
D: 取組を縮小・中止する	1
<b>合計</b>	<b>16</b>

### 基本目標3 市民みんなで子育てを応援する

～ 安心して子どもを産み、育てられるまち「丹波市」をつくる ～

○若い世代が結婚、出産、子育てに希望がもてるよう各ライフステージにおいて、地域コミュニティや企業など多様な主体がサポートできる環境づくりに取り組む。また、子育てにかかる経済的負担を軽減するとともに妊娠・出産・育児に関する適切な保健指導や情報提供などの充実に取り組む。

#### 【基本目標の重要目標達成指標】

数値目標	項目	基準値	中間KPI				目標値
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
出生数	数値目標	-	520人/年	520人/年	520人/年	520人/年	520人/年
	成果数値	495人/年	457人/年	469人/年	441人/年		
	達成度	-	○	○	○		
「地域全体で子育てを支えている」と感じている市民の割合	数値目標	-	56.0%	62.0%	68.0%	74.0%	80.0%
	成果数値	47.40%	44.40%	45.90%	50.50%		
	達成度	-	○	△	△		

【達成度】◎達成（目標値以上）、○概ね達成（目標値の80%以上100%未満）、△未達成（80%未満）、-実績値なし（当該年度の実績値なし）

#### 【内部検証】

○【基本目標の重要目標達成指標】出生数は、若年層の減少や少子化の一因である晩婚化、未婚化により、年々減少傾向にある。目標達成に向けては、婚活・子育て支援の充実などによりいっそう産み育てやすい環境づくりを進めるとともに、若年層の人口と婚姻数を維持していくことが重要である。

○【出産・子育て支援】病児・病後児保育利用人数が目標値を大きく上回り、子どもの急な体調変化に対し、保護者が安心して就労できる環境を整えることにつながっている。看護師の全園配置に向けた取組を進めているが、看護師不足に加え、病児病後児保育など認定こども園において看護師が必要とされている認知度が低いことが配置につながっていない要因と考えられることから、引き続き女性有資格者人材バンク事業や関係機関との連携など取組を強化する必要がある。

○【子育てに関する情報発信と支援環境づくり】子育て世代のニーズにあった官民の情報をリアルタイムに発信していくことは、子育て家庭の相談支援体制の確立、子育て世代の交流の場の創出につながっていくものであることから、サイトの利用しやすい環境設定（スマートフォン対応等）を行っていく必要がある。

#### 【委員会コメント】

丹（まごころ）の里創生総合戦略【基本目標3 市民みんなで子育てを応援する】事業一覧

進捗管理 シートNo.	事業名	施策の方向性	交付金の種類	施策の種類	施策の分類	決算額 (千円)	事業における重要業績評価指標 (KPI)				今後の方向性	担当課	課題と改善点及び方向性
							指標名	単位	数値目標	成果数値			
36	婚活支援 事業	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(1). 出 会い・結婚 支援	616	① 婚活マスターの登録者数	名/年	20	10	△	婚活おせかいマスターの活動を中心とした婚活支援として、お 原会や婚活や結婚相談所は、自前敷金を上回ることでできた。 原会にいたるまでの期間がかかるため、婚約締結の遅延が難しい 状況にあるおせかいマスターの活動についても、活動しやすい 環境づくりを行う必要がある。	・シニアプロモーション事業推進「婚約300組（平成32年度）」の 達成に向けて婚活支援事業全体を平成30年度外部委託に向けて後 計する。ター・協会の協力を得られるよう に、積極的な開業を促す。 ・おせかいマスターと協会のつながりにより、拡充を図る。	
						② 婚活マスターを通じたお見合い件数	件/年	30	39	◎			
						③ 婚活マスターを通じた婚約組数	件/年	6	1	△			
						④ 結婚相談件数	件/年	250	391	◎			
37	婚活マイ スター協 力店登録	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(1). 出 会い・結婚 支援	0	① 協力店登録数	店舗	65	39	△	・事業団体に登録している継続した事業所があり、協力店登録数は増 えている。 ・市民みなさまを支援するという観点から、協力店からの提案事業 を増やそうとする必要がある。		
						② 協力店からの提案事業数	件/年	3	3	◎			
						③							
						④							
38	少子化対 策民間活 動支援事 業補助金	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(1). 出 会い・結婚 支援	593	① 婚活イベント参加者数	名/年	300	132	△	・事業団体に登録している継続した事業所においてより出会うの場づくりとし て補助金を活用されており、参加者も増加している。 ・産後数ヶ月にも関わらず、効果が出ていない。 ・産後数ヶ月にも関わらず、効果が出ていない。		
						② 婚活イベント件数	件/年	4	3	△			
						③ 婚活イベントによるカップル誕生数	組/年	40	28	△			
						④							
39	ソープラ ス1出産 祝金の支 給	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出	地方創生先 行型交付金 (基礎交 付)	3-1-(2). 出 産・子育て 支援	18,053	① 妊娠届出件数	件/年	500	424	○	出生数の増加（維持）は一定の効果は認められるものの、その効果 は限定的で、全体の出生率を高める取組にはなっ ていない。		
						② 出生数	人/年	520	441	○			
						③							
						④							
40	乳幼児・ 子ども医 療費助成 事業	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(2). 出 産・子育て 支援	268,485	① 「乳学前の子育て支援が安心してできる相談支援 体制が整っている」と思う市民の割合	%	36.6	23.1	△	【医師等】ありあけの（外）外、全体助成金額） 171,086,000円 165 助成件数 27件 助成金額 33,699円 H29 4,708人 28件 35,029円 164,915,899円 ・子ども 受診者数 助成額 H28 3,334人 20件 24,259円 85,731,905円 ※中学生までで無料化した平成25年度以降、1人当たりの外、 全体の助成額は増加している。		
						②							
						③							
						④							
41	放課後こ どもプラ ン事業 ター クル	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(2). 出 産・子育て 支援	51,983	① 「乳学前の子育て支援が安心してできる相談支援 体制が整っている」と思う市民の割合	%	36.6	23.1	△	・「子育てに力がかかる場面は多岐にわたる上、保育士不足のため、利用目 ない対応が可能なことによる、開業行動をとることが困難な状況も見 られる。少人数ではあるが、継続行動をとることが困難な状況も見 られる。		
						② 割合	%	100	93.9	○			
						③							
						④							
42	放課後こ どもプラ ン事業 ター クル	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(2). 出 産・子育て 支援	202,514	① 「乳学前の子育て支援が安心してできる相談支援 体制が整っている」と思う市民の割合	%	36.6	23.1	△	アフタースクール利用児童の保護者に対するアンケート調査に 対する結果が安心して利用できるのはアフタースクールの調査に 対して「共働きの親が安心して働くことができるのはアフタース クールのおかげと感謝しています。」「いつも楽しく利用させてい ただいてありがとうございます。」などの意見をいただいております。 を預けられる場所であるという評価を得ていると考えられる。		
						②							
						③							
						④							
43	ファミ リサー ポート 事業	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(2). 出 産・子育て 支援	3,951	① 「乳学前の子育て支援が安心してできる相談支援 体制が整っている」と思う市民の割合	%	36.6	23.1	△	本事業は、子育てについて補助金を必要とする市民と、補助金を 利用しない市民をターゲットにすることが一層の効果が期待できる 体制を向上させる一助となっている。		
						②							
						③							
						④							
44	保育料軽 減措置	3-1. 結婚、 出産、子育てに 満足できる暮 らしの創出		3-1-(2). 出 産・子育て 支援	13,630	① 「乳学前の子育て支援が安心してできる相談支援 体制が整っている」と思う市民の割合	%	36.6	23.1	△	近隣自治体では、異なる保育料軽減が実施されている。市域か ら、子育て支援を望む声もあがっている。一方で保育士不足が 大きな課題となっており、負担軽減を行うことによる保育士不足の リスクは十分認識している。また、保育料軽減を実施することによる 負担軽減よりも人材確保を確保する必要がある。		
						② 園の教育・保育に対する保護者の明 確な充足感	%	90	89	○			
						③							
						④							

丹（まごころ）の里創生総合戦略【基本目標3 市民みんなで子育てを応援する】事業一覧

進捗管理 シートNo.	事業名	施策の方向性	交付金の種類	施策の種類	施策の分類	決算額 (千円)	事業における重要業績評価指標 (KPI)				今後の方向性	担当課	KPIに対する効果・検証	課題と改善点及び方向性
							指標名	単位	数値目標	成果数値				
45	看護師配置事業	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出	地方創生先行型交付金（基礎交付）	3-1- (2). 出産・子育て支援	3-1- (2). 出産・子育て支援	18,573	① 病児・病後児保育利用人数（延べ）	人	742	1637	◎	子どもの急な体調変化にも対応できるように看護師を配置し、保護者が安心して教育できる環境を整えることになっている。	全園配置に向け取組を進めているが、看護不足に加え、病児保育の体制整備など課題も多く、園児の負担軽減を図る必要がある。また、子育て支援センターの活用も必要である。	
							② 認定こども園卒園児の割合	%	100	66.7	△			
							③							
							④							
46	特別支援保育事業	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出		3-1- (2). 出産・子育て支援	85,158	① 就学前の教育・保育施設に通う園児の保護者の満足度	%	80以上	89	◎	要特別支援児の成長を支援するため、加配保育士等を配置し、保育士の負担軽減を図る。また、就学前保育・保育に対する保護者の満足度向上を図っている。	保育士不足から、加配保育士配置が困難な状況になりつつある。保育士確保に向け、引き続き効果的施策等に取り組む必要がある。		
						②								
						③								
						④								
47	家庭教育講座	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出		3-1- (2). 出産・子育て支援	493	① 講座の受講者数（講座開設定員の80%以上）	%	80以上	26	△	子育てに不安や悩みを抱える保護者が多い中において、家庭教育講座の開催が効果的であり、安心して子育てができる環境づくりにつながっている。	主に参加している保護者に受講してもらおうと計画し、子育て講座の開催に努めている。また、子育て支援センターの活用も必要である。		
						②								
						③								
						④								
48	保育教諭の処遇改善	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出		3-1- (2). 出産・子育て支援	13,595	① 市内の民間保育士・保育教諭数（正規）	人/年	240	191	△	認定こども園等の保育士の処遇改善を図り、保育人材を確保することを目指す。また、民間保育士の確保も必要である。	保育士の処遇改善は、民間保育士の確保も必要である。また、民間保育士の確保も必要である。		
						②								
						③								
						④								
49	利用者支援事業（子育て学習センター）	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出		3-1- (3). 子育てに関する情報発信と支援環境づくり	8,542	① 子育て学習センターの利用率	%	36.6	23.1	△	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育て学習センターの利用率を向上させる。また、子育て学習センターの活用も必要である。	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育て学習センターの利用率を向上させる。また、子育て学習センターの活用も必要である。		
						② 子育て学習センターの利用率	人	40000	46147	◎				
						③								
						④								
50	子育て支援ハンズ作成	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出		3-1- (3). 子育てに関する情報発信と支援環境づくり	0	① 子育て支援ハンズ作成の件数	%	36.6	23.1	△	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育て支援ハンズ作成の件数を向上させる。また、子育て支援ハンズ作成の活用も必要である。	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育て支援ハンズ作成の件数を向上させる。また、子育て支援ハンズ作成の活用も必要である。		
						②								
						③								
						④								
51	丹波市子育てポータルサイト運営	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出	地方創生先行型交付金（基礎交付）	3-1- (3). 子育てに関する情報発信と支援環境づくり	1,426	① ホームページアクセス件数	件/年	19万件以上	155174	○	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育てポータルサイトのアクセス件数を向上させる。また、子育てポータルサイトの活用も必要である。	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育てポータルサイトのアクセス件数を向上させる。また、子育てポータルサイトの活用も必要である。		
						② サイト閲覧者の満足度	%	50%以上	16	△				
						③								
						④								
52	子育てポータルサイト運営	3-1. 結婚、出産、子育てに満足できる暮らしの創出		3-1- (3). 子育てに関する情報発信と支援環境づくり	630	① サポーター登録者数	人	30以上	21	△	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育てポータルサイトの登録者数を向上させる。また、子育てポータルサイトの活用も必要である。	子育てに関する情報発信と支援環境づくりを推進し、子育てポータルサイトの登録者数を向上させる。また、子育てポータルサイトの活用も必要である。		
						②								
						③								
						④								
53	ワーク・ライフ・バランス推進事業	3-2. ワーク・ライフ・バランスの推進		3-2- (1). ワーク・ライフ・バランスの推進	3,058	① 仕事と生活のバランス（ワークライフバランス）が定着している」と思う市民の割合	%	58.2以上	41.9	△	ワーク・ライフ・バランスの推進を図るため、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。また、ワーク・ライフ・バランスの推進も必要である。	ワーク・ライフ・バランスの推進を図るため、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る。また、ワーク・ライフ・バランスの推進も必要である。		
						② 女性（15〜64才）の就業率	%	70	69.5	○				
						③								
						④								

丹（まごころ）の里創生総合戦略【基本目標3 市民みんなで子育てを応援する】事業一覧

進捗管理 シートNo.	事業名	施策の方向性	交付金の種類	施策の種類	施策の分類	決算額 (千円)	事業における重要業績評価指標 (KPI)				今後の方向性	担当課	課題と改善点及び方向性			
							指標名	単位	数値目標	成果数値				達成度		
54	企業における女性の活躍応援事業	3-2. ワーク・ライフ・バランスの推進			3-2-(1). ワーク・ライフ・バランスの推進	3,058	①	社/年	15	1	△	推進し取組の一部を改善する	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい働き場を創出する働き方調査、キャリアアップ、子育て介休休暇制度等が定着するように指導する方策を、国・県の政策を踏まえ継続的実施し、関係機関等と連携し、関係機関との連携を強化し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> </ul>			
							②									
							③									
							④									
55	地域と連携した学校の仕組みづくり	3-3. 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり			3-3-(1). 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり	240	①	校	7	3	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 引き続き現状の取組を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> </ul>			
							②									
							③									
							④									
56	たんばふるさと学	3-3. 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり			3-3-(1). 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり	1,173	①	人/年	1100	1534	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 引き続き現状の取組を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい学校支援コーディネーターの選出や、現コーディネーターへの研修など、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> </ul>			
							②	%	80	77.8	○					
							③									
							④									
57	平成たんば塾	3-3. 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり			3-3-(1). 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり	1,214	①	校区	22	22	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>B: 全般的には推進し取組の一部を改善する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度で一旦事業効果の検証を行い、継続実施するかを判断し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> </ul>			
							②	%	68	50.5	△					
							③									
							④									
58	ふるさと食育推進事業	3-3. 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり			3-3-(1). 子どもが地域の魅力を学ぶきっかけづくり	1,347	①	回/年	45	43	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>A: 引き続き現状の取組を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> <li>各課の業務を推進し、関係機関と連携し、関係機関との連携を強化する。</li> </ul>			
							②									
							③									
							④									

達成度	
◎ 達成 (目標値以上)	8
○ 概ね達成 (目標値の80%以上100%未満)	8
△ 未達成 (80%未満)	22
- 実績値なし (当該年度の実績値なし)	0
<b>合計</b>	<b>38</b>

今後の方向性	
A: 引き続き現状の取組を推進する	12
B: 全般的には推進し取組の一部を改善する	10
C: 取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討する	0
D: 取組を縮小・中止する	1
<b>合計</b>	<b>23</b>

## 基本目標4 元気な地域をつくる

～ 活力ある地域コミュニティを育て、市民がいきいきと暮らすまちをつくる ～

○生涯学習活動や市民活動、地域づくり事業など、市民や市民団体、NPO法人が主体となった交流や人材育成の拠点並びに男女共同参画社会の実現に向けた活動拠点となる「たんば市民プラザ（仮称）」の設置に取り組む。また、市民一人一人が健康で、質と満足度の高い生活を送ることができる環境を整備するとともに、人口が減少する中で地域内のつながりや取り組みを支援し、力強いコミュニティの形成を目指していく。

### 【基本目標の重要目標達成指標】

数値目標	項目	基準値		中間KPI			目標値
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
「日々のしごと（農作業・家事・育児等含む）にやりがいや充実感がある」と感じている市民の割合	数値目標	-	-	62.0%	63.0%	64.0%	65.0%
	成果数値	-	60.60%	63.80%	62.00%		
	達成度	-	-	◎	○		
「自治会・小学校区は、地域活動が活発化している」と感じている市民の割合（いずれも（「そう思う」と「まあそう思う」の計）	数値目標	-	40.0%	45.0%	50.0%	55.0%	60.0%
	成果数値	36.70%	40.10%	40.90%	45.90%		
	達成度	-	◎	○	○		

【達成度】◎達成（目標値以上）、○概ね達成（目標値の80%以上100%未満）、△未達成（80%未満）、-実績値なし（当該年度の実績値なし）

### 【内部検証】

○【基本目標の重要目標達成指標】地域活動が活発化していると思う市民が目標値に対して微減となっている。  
地域づくり事業において、目的に沿った取り組みが行われているものに対しての補助の考え方の見直しが必要である。平成30年度に開催する自治協議会のあり方懇話会を通して、自治協議会の組織運営や活動内容等について、参画と協働の理念のもと、より良い自治組織になるよう課題解決に向けて協議を行い、市の補助の考え方についても検討をする必要がある。

○【健康で生きがいの持てる人づくりの推進】TAMBA地域づくり大学で人材育成事業に関する専門性、先駆性等の特性を生かした企画が期待できることから企画公募方式として、市内のNPO法人が受託実施し、多彩な講座を実施することができた。

子ども・若者育成支援事業では、相談業務と居場所活用件数（利用者45人うち6人社会復帰）が見込みを大きく超えるものとなっており、社会復帰に導く一助になっていることが推察される。一人でも多くの対象者を社会復帰させるためには、福祉・医療・教育・就労等の関係部署との連携により幅広い支援策を行う必要があることから、本業務の周知方法について検討をしていく必要がある。

○【豊かな地域力の向上によるまちづくりの推進】丹波市市民活動支援センター基本計画を策定するにあたり、アンケート調査やパブリックコメントを実施し、意見を伺った。また、市民活動・地域づくり活動応援フォーラムを開催し、丹波市市民活動支援センター（仮称）の設置に向け市民の機運を高めることができた。

### 【委員会コメント】



丹（まごころ）の里創生総合戦略【基本目標4 元気な地域をつくる】事業一覧

進捗管理 シートNo.	事業名	施策の方向性	交付金の種類	施策の種類	施策の分類	決算額 (千円)	事業における重要業績評価指標 (KPI)				担当課											
							指標名	単位	数値目標	成果数値	達成度	今後の方向性	KPIに対する効果・検証	課題と改善点及び方向性								
68	地域づくり 交付金 制度	4-2. 豊かな地域力の向上によるまちづくりの推進			豊かな地域力の向上によるまちづくりの推進	117,020	① 「自治体・小中学校は、地域活動が活発化している」と思う市民の割合	%	50	45.9	○	地域活動が活発化していると思う市民が激減している。 地域づくり事業において、目的に沿った取り組みが行われているものに対しての補助の考え方が重要になる必要がある。	今年展開する自治体協議会を通じた、自治協議会 の組織運営や活動内容等について、他市と協働の理念のもと、より良い自治体となるよう課題解決に向けて協議します。また、 市の補助の考え方についても検討をする必要がある。									
							②															
							③															
							④															
69	よろずおせっかい相談所及びよろずおせっかい支援センター（仮称）の開設・運営	4-2. 豊かな地域力の向上によるまちづくりの推進			豊かな地域力の向上によるまちづくりの推進	15,186	① よろずおせっかい相談所開設所数	か所	21	26	◎	・既に設置している「よろずおせっかい相談所」を周知し、更なる 民生課題の把握・分析、対応を促す。 ・新年度に に設置を進める。平成30年度は3地区を目標とする。										
							② 支援センター経由の生活困りごと相談件数						件	40	39	○	・「相談件数が増えている」と感じる ・「相談件数が増えている」と感じる ・「相談件数が増えている」と感じる					
							③ 相談に来ている市民の割合											%	30	29.9	○	・「よろずおせっかい相談所」と「よろずおせっかい支援センター」の設置により、39年の相談があった。 ・「相談件数が増えている」と感じる ・「相談件数が増えている」と感じる
							④															
① 「学びの活動で身につけた知識や技能を生かしたい」と思う市民の割合	%	33	29.2	○	・丹波市民活動支援センター基本計画を策定することにより、ア ンケータやボランティアセンターの設置を進め、意見を伺った市民 ・丹波市民活動支援センターの設置を進め、意見を伺った市民 ・丹波市民活動支援センターの設置を進め、意見を伺った市民 ・丹波市民活動支援センターの設置を進め、意見を伺った市民																	
② フォーラム参加者数						人/年	-	68	-	・丹波市民活動支援センターの設置を進め、意見を伺った市民 ・丹波市民活動支援センターの設置を進め、意見を伺った市民 ・丹波市民活動支援センターの設置を進め、意見を伺った市民 ・丹波市民活動支援センターの設置を進め、意見を伺った市民												
③																						
④																						
70	市民活動拠 点施設の設 置（仮称： たんば市民 プラザ）	4-2. 豊かな地域力の向上によるまちづくりの推進			豊かな地域力の向上によるまちづくりの推進						2,902	①					・丹波市民プラザ（仮称）基本計画の策定 ・丹波市民プラザ（仮称）設置機体制の決定 ・丹波市民プラザ（仮称）設置機体制の決定 ・丹波市民プラザ（仮称）設置機体制の決定 ・丹波市民プラザ（仮称）設置機体制の決定					
						②																
						③																
						④																

達成度	
◎ 達成（目標値以上）	10
○ 概ね達成（目標値の80%以上100%未満）	9
△ 未達成（80%未満）	2
- 実績値なし（当該年度の実績値なし）	4
<b>合計</b>	<b>25</b>

今後の方向性	
A：引き続き現状の取組を推進する	6
B：全般的には推進し取組の一部を改善する	5
C：取組の大幅な見直しや新たな取組の追加を検討する	1
D：取組を縮小・中止する	0
<b>合計</b>	<b>12</b>